

団体名	府中町	所 属	教育委員会	他団体等との連携	府中町学校 P T A 連絡協議会
連絡先	社会教育課 (082) 286-3272				

取組事例名	府中町における家庭教育支援の取組	取組期間	平成 2 3 年度～
--------------	------------------	-------------	------------

取組の概要 ～ 「家庭教育のあり方」の普及・啓発や親のまなびに対する支援

府中町では家庭教育支援の重点的な取組として、「家庭教育のあり方」の普及・啓発や親のまなびに対する支援を行った。

取組の背景 ～ 子供や保護者をとりまく状況は多くの問題がある

近年、子供や保護者をとりまく問題として、暴力行為やいじめ、不登校、児童虐待など多くの憂慮すべきことがある。

府中町には、若い方や会社勤めの方が多く、転出入による人の入れ替わりも激しいことから、人と人とのつながりも希薄化する傾向にあり、こういった問題も顕著に表れていると思われる。

これまで、公民館等での家庭教育講座や P T A との共催による講演会などを開催してきたが、承り型の学習方法では身に付きにくく、十分な成果が期待できない状況である。

取組のねらい ～ 子供や保護者をとりまく問題の克服

暴力行為やいじめ、不登校や児童虐待など、子供や保護者をとりまく問題を克服するため、家庭教育支援の取組を行った。

取組の具体的内容 ～ 家庭教育のあり方をまとめ全戸配布、家庭教育シンポジウムの開催

1 「家庭教育のあり方」の普及・啓発

平成 2 0 年 8 月に府中町社会教育委員の会議での提言を「府中町における家庭教育のあり方」としてまとめ全戸に配布した。

この「家庭教育のあり方」は、子供の基本的な生活習慣の形成や人間として望ましい心情や態度を養う上で、大きな役割を担っている家庭での教育の大切さや、子供に伝えるべき基本的な事項などを示している。

この提言を府中町の家庭教育の推進の基本として位置付け、さらには、平成 2 4 年度に、この提言を抜粋し、わかりやすく簡潔にまとめ、現在も様々な機会において普及・啓発に活用している。

2 親のまなびの支援

(1) 「親の力をまなびあう学習プログラム」の積極的活用

平成 2 3 年度から「親の力をまなびあう学習プログラム」を活用した講座の進行役であるファシリテーターを継続的に養成し、この講座を保育園、幼稚園、小学校、公民館等を中心に積極的に開催している。

※「親の力をまなびあう学習プログラム」とは？

子育ての段階に応じて「いつでも・どこでも・だれでも」使用できる広島県生涯学習センターが開発したワークシート形式の学習プログラムで、1 グループ 5 ・ 6 名単位で行います。参加者がただ一方的に聴くという聴講形ではなく、エピソードをもとにグループで楽しく話し合い、考えを出し合い、それぞれの意見を尊重し、聴いて納得する参加型のプログラムです。

この講座はファシリテーターが進行し、参加者の学習活動を支援し、そして「自ら気づきまなぶ力」を引き出します。

(2) 「家庭教育シンポジウム（フォーラム）」の開催

平成 2 4 年 1 0 月、小学生が虐待で亡くなるという痛ましい事件がきっかけとなり、町学校 P T A 連絡協議会と教育委員会が一丸となって取り組む決意を新たにし、シンポジウムを開始した。

※内容

平成 2 5 年	1 月 1 2 日 (土)	テーマ「虐待」	講師	長井 敏弘氏
平成 2 5 年	9 月 2 3 日 (月 祝)	テーマ「しつけ」	講師	浦 光博氏
平成 2 6 年	7 月 5 日 (土)	テーマ「ネット社会」	講師	長谷川陽子氏

取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 本当に必要としている方への普及方法

様々な情報やまなびを本当に必要としている親へ、いかにして届けるか。

創意工夫した点 ～ コーディネーターの設置、独自教材の作成

1 「親の力をまなびあう学習プログラム」の作成

「親の力をまなびあう学習プログラム」を活用した講座を、将来的には地域単位で自主的に開催できるように、中心的な役割を担うコーディネーターを5人設置した。

できるだけ多くの方に参加いただけるよう、様々な年齢層や地域の課題に対応したプログラム、時間短縮版などの独自教材を作成した。

2 「家庭教育シンポジウム（フォーラム）」の開催

家庭教育を支援するため、PTAと連携協力し、シンポジウム（フォーラム）を開催した。

取組の成果（効果） ～ アンケートでは前向きな意見が多く、概ね好評

1 「親の力をまなびあう学習プログラム」の実施状況

コーディネーター 5人
ファシリテーター養成人数 107人
講座開催 49回 延べ参加者1,048人（平成25年度実績）
※ アンケートで多くの方から、子育ての不安が軽減された、自分の子育てを客観的に見ることができたなど前向きな意見が多数寄せられ、概ね好評であった。

2 「家庭教育シンポジウム（フォーラム）」の開催

参加者数 H24 500人
H25 335人
H26 315人
※ アンケートの結果、シンポジウムは概ね好評であった。
参加者の意見を、次回テーマの選定などの参考にしている。



家庭教育シンポジウム

今後の展開 ～ 地域単位の組織づくり、PTAとの連携による家庭教育シンポジウムの継続実施

1 「家庭教育のあり方」の普及・啓発

本当に必要としている親へいかにして情報を届けるか検討する。

2 親のまなびの支援

(1) 「親の力をまなびあう学習プログラム」の継続実施

コーディネーター、ファシリテーターなどの更なる人材育成を行い、将来的には各小学校区などの地域単位で自主的に開催できるような組織づくりを行う。

(2) 「家庭教育シンポジウム（フォーラム）」の開催

PTAとの連携協力を深め、今後も、その時々課題をテーマとして選定し、継続的に実施する。

他団体へのアドバイス ～ PTAとの連携協力は重要

府中町における家庭教育支援のいずれの取組においても、家庭・地域・学校が一体となって取り組むことが不可欠であるため、PTAとの連携協力は大変重要と考える。